

令和元年度

公立大学法人会津大学の業務実績に関する評価結果

令和2年9月

福島県公立大学法人評価委員会

## 公立大学法人会津大学の令和元年度業務の実績に関する評価結果（年度評価）

### 第1 「全体評価」

公立大学法人会津大学（以下「法人」という。）においては、平成18年の法人化以降、法人化のメリットを生かした以下の特色ある運営がなされている。

- 理事長のリーダーシップのもと、組織、人事、予算等の面での自由度を生かした自主的・自律的な運営
- 学外者や専門家の幅広い見地と地域社会のニーズ等を踏まえた運営

第三期中期目標期間の2年度目となる令和元年度の業務実績について、法人による自己評価は次のとおりである。

全項目（170項目）

|                        |            |
|------------------------|------------|
| 「A：年度計画を上回って実施している」    | 40項目（24%）  |
| 「B：年度計画を予定どおりに実施している」  | 123項目（72%） |
| 「C：年度計画を下回って実施している」    | 7項目（4%）    |
| 「D：年度計画を大幅に下回って実施している」 | 0項目（0%）    |

同法人においては、理事長のリーダーシップの下、役員会、経営審議会、教育研究審議会等の機関や教職員が相互に緊密な連携を図りながら、法人を挙げて中期目標の達成に向けて、教育、研究、国際化及び地域貢献・復興支援等に積極的に取り組み、成果を出しており、高く評価できる。

また、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故からの復興や地方創生に寄与するため、コンピュータ理工学、産業情報学、食物栄養学及び幼児教育学の専門性を生かした取組を推進し、人材育成や技術開発、産業・文化の振興に貢献する等社会的にも大いにその評価を高めている。

#### 1 会津大学

会津大学（以下「四大」という。）では、コンピュータ理工学の分野において国内外で活躍できる優秀な研究者・技術者、技術革新の指導者及び起業家精神を持つ人材の育成、宇宙情報科学研究センターにおける「はやぶさ2」プロジェクトへの参画、先端情報科学研究センターによる研究の推進、月惑星探査アーカイブサイエンス拠点の認定、1850名の参加申込みがあった「パソコン甲子園2019」の開催、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業による留学やインターンシップの促進等、四大の特徴を生かした様々な取組を実践し、広く国内外に発信し続けていることについて高く評価できる。

また、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故からの復興を目的に整備した「先端ICTラボ」の活用や会津若松市のスマートシティAiCT整備に向けた連携活動等、産学官連携の強化を図るとともに、イノベーションコスト構想（東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、当該地域の新たな産業基盤の構築を目指す構想）の実現に向けて浜通り地域で重点的に支援しているロボット産業の振興や県立医科大学との連携による県民健康調査への支援、さらには女性IT人材の育成による就労支援事業や先端ICT技術の開発に携わる人材の育成事業に取り組む等、大学の特色を生かした新たな産業の創出及び雇用の拡大を図り、本県の復興に貢献していることについても評価できる。

## 2 会津大学短期大学部

会津大学短期大学部（以下「短大」という。）では、専門分野（経営、デザイン、情報、栄養、食品、健康、福祉、保育、幼児教育等）の知識や技術を身につけ、地域に密着し社会貢献のできる職業人の育成、地域活性化センターを中心とした地域の産学官民との協働・連携による地域振興への貢献、進行する少子化の中での優秀な学生確保に向けた取組や進路支援、学生参画型実学・実践教育の実施、授業評価の公表や教員への周知による授業改善、派遣講座の開講等に積極的に取り組んでおり、評価できる。

とりわけ、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の被災自治体と連携し、将来を担う人材の育成支援や地域課題の解決を目的とするボランティア活動を通じた復興支援に取り組んだことは、大いに評価できる。

### 第2 「項目別評価」

#### 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

##### (1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

〔令和元年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△〕

##### (四大)

- ① ◎ 積極的な高校訪問、オープンキャンパス、進学説明会等の機会を通じて、アドミッション・ポリシーの周知を図り、大学が求める入学者の確保に努め、一般入試の志願倍率が6.3倍となり、目標の志願倍率5.0倍を上回って達成した。
- ② △ 女子入学生の増加に向けて、情報発信やPR活動に努めたものの、入学者に対する女子学生の割合が目標の14%に対して9.4%に止まった。これについては、目標設定の必要性及び妥当性について検討が必要。
- ③ ○ 学部1年生のうち、TOEIC400点以上の割合が、目標の60%に対して、69.6%となった。
- ④ ○ 大学院進学フェア、オープンキャンパス等の開催や高等専門学校への広報等を積極的に行ったが、大学院博士前期課程の定員充足率は目標の70%を下回る67.5%に止まった。
- ⑤ ○ 国際公募により優秀な教員の採用を継続して行い、外国人及び国外の大学で学位を取得した専任教員等の割合が目標の57%に対して概ね達成した。
- ⑥ △ 成績不振学生の発生を抑えるため、クラス担任による個人面談を年2回実施した他、成績不振の学生及び保護者に対して、教員、学生課職員、カウンセラー、修学支援員の連携による面談を延べ64回実施したが、成績不振学生100名以下にするという目標に対して、130名以上になってしまった。これについては、成績不振になってしまう原因及び対策について検討が必要。
- ⑦ ○ 学生の経済的負担軽減のため、授業料減免制度の継続実施、「会津大学

「学生生活支援基金」の設置による寄附金の募集開始、学内売店で使用できるプリペイドカードの支給等の支援を行った。

**(短大)**

- ① ◎ 大学が求める入学者の確保に向けた取組みとして、高校訪問、オープンキャンパス、進学説明会、ホームカミング・レポーター等を実施した他、キャンパスガイド及びWebサイトの表示方法の見直し、アンケートの改善による広報活動の改善を実施した結果、志願倍率が3.1倍となり、目標の2.0倍程度の維持を達成した。
- ② ○ 入学者選抜方法の改善を目的として、入試結果に係るデータを分析し、幼児教育学科における推薦選抜と一般選抜の募集定員数の調整、食物栄養学科においてⅡ期入試の導入を決定した。
- ③ ○ 各学科において資格取得に向けた支援を行い、下記のとおり、資格取得希望者の取得率は、目標である100%を概ね達成した。

|        |                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------|
| 産業情報学科 | 色彩検定80.0%、2級建築士受験資格100%                                           |
| 食物栄養学科 | 栄養士免許資格100%、フードスペシャリスト資格認定試験受験資格95.5%、NR・サプリメントアドバイザー認定試験受験資格100% |
| 幼児教育学科 | 幼稚園教諭二種免許100%、保育士資格100%                                           |

- ④ △ 免許資格関連職への就職率について、目標と結果は下記のとおりだった。なお、景気の動向に左右され、学生本人の希望にも配慮する必要がある。指標の妥当性や必要性について検討が必要。  
 食物栄養学科 実績 70.3% (目標 80%)  
 幼児教育学科 実績 96.0% (目標 95%)
- ⑤ ○ 学生寮の生活環境の改善を目的として、寮生への直接の聞き取り等を行った上で、電気容量アップ工事、厨房改修工事、換気扇改修工事等を実施した。
- ⑥ ○ 学生支援のため、授業料減免措置の継続、プリペイドカードの支給等の経済的支援の他、相談用窓口の新設、編入希望者向けの短期学内講座やTOEIC短期学内講座を企画・実施を行った。

**(共通)**

- ① ○ 学生や企業ニーズの把握、個別面談の実施等の就職サポートに努めたことにより、高い就職率を維持した。  
 四大(大学院) 実績 98.1% (目標100%)  
 四大(学部) 実績 98.1% (目標100%)  
 短大 実績 97.7% (目標100%)

**(2) 研究に関する目標を達成するための措置**

**【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。**

**[令和元年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]**

**(四大)**

- ① ㊦ 主要学術論文採択数、学術論文引用件数、特許出願件数は、下記のとおり目標値を上回った他、先端情報科学研究センターの宇宙情報科学クラスターが文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」の認定を受け、宇宙情報科学研究センターとして分離独立し、全国の研究者と共同研究を実施している。

|           |    |       |     |        |
|-----------|----|-------|-----|--------|
| 主要学術論文採択数 | 実績 | 313件  | (目標 | 300件)  |
| 学術論文引用件数  | 実績 | 4743件 | (目標 | 3000件) |
| 科研費新規採択率  | 実績 | 28.9% | (目標 | 30%)   |
| 特許出願件数    | 実績 | 15件   | (目標 | 10件)   |

- ② ㊦ 語学研究センターでは、多様な研究に取り組み、教員全員が国際会議での発表を行い、会津大学にて国際会議を1件開催した。

### (短大)

- ① ㊦ 研究テーマや業績をとりまとめているシーズ集の配布、Webサイトへの掲載、地域連携機関（産官民学）からの委託事業の受け入れ、地域実践研究事業及び学生参画型実学・実践教育等を行うことで、研究成果を地域社会へ還元した。
- ② ㊦ 著書や論文等の公表された研究活動実績が目標の100件を上回る129件となった。

### (共通)

- ① ㊦ 外部の公募型研究費、産学官連携関係を含む外部資金の獲得について、下記のとおり目標を大幅に上回った。
- |            |    |       |     |        |
|------------|----|-------|-----|--------|
| 公募型研究費獲得件数 | 実績 | 130件  | (目標 | 50件)   |
| 外部資金獲得額    | 実績 | 3.7億円 | (目標 | 1.5億円) |

### (3) 国際化に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和元年度で特に評価できる取組㊦、評価できる取組㊦、検討課題等△】

### (四大)

- ① ㊦ ビジネス企画とIoT開発を入門から学ぶことができる施設SOVO (Student Office & Venture Office) での海外研修プログラムや、現地ベンチャー企業において最先端のR&Dを行うシリコンバレー中期インターンシッププログラムを新たに整備することで、インターンシッププログラムの質を向上させた。
- ② ㊦ スーパーグローバル大学事業の自走化のため、国内外の企業等から協賛金を2件獲得できた他、インターンシッププログラムの実施体制の転換を図るためのモデルケースを実施した。
- ③ ㊦ 地域自治体や会津大学外国人留学生後援会等と連携し、小学校訪問や交流イベントを実施する等、積極的に地域住民との国際交流を図った。
- ④ ㊦ デュアルディグリープログラムやグローバル3+2プログラム等を通して、優秀な外国人留学生を協定大学から獲得することに努めたことに

より、外国人留学生の割合が全体の9.5%となり、目標の6.3%を上回った。

- ⑤ ○ 新入生オリエンテーションや留学フェア等における周知を徹底したことで、日本人学生の留学経験者数を目標以上に達成できた。  
(目標40名に対して、41名の参加が決定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、うち32名が派遣中止となった。)

## 2 地域貢献・東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

### (1) 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和元年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

#### (四大)

- ① ○ 「パソコン甲子園2019」では、43都道府県から1,850名が参加し、69社の企業から協賛を得ることができた。また、パソコン甲子園開催を通じた人材育成の取組みが評価され、(公社)日本工学教育協会の第23回工学教育賞表彰において、文部科学大臣賞を受賞した。
- ② ○ 会津若松市及び関係団体と連携し、県内外の中高生が参加する「コンピュータサイエンスサマーキャンプ会津大学2019」を開催した。募集枠60名に対して、約2倍の応募があり、抽選の結果、64名の中高生が参加した。参加者に対して、会津大学および会津の魅力に触れる機会を提供できた。
- ③ ○ 県内延べ33校の高校へ出前講義を実施し、会津学鳳高校および会津学鳳中学へ教員を派遣して情報等の講義を行った。
- ④ ○ これまでに協定を締結した市町と引き続き連携事業に取り組んだ他、新たに只見町、西会津町と連携協定を締結し、会津オープンイノベーション会議(県内外の企業等が求める技術相談や意見交換を行う場。以下「AOI会議」という。)を通じた解決支援を行った。また、いわき市を訪問し、連携の可能性を探った。
- ・ 会津若松市：スマートシティAICTと連携した、地域企業と学生との交流促進や課題解決の手法を学ぶ実践ビジネス・テクノロジー事業等を実施した。
  - ・ 喜多方市：県立病院跡地の利用計画に関するAOI会議を開催し、助言した。
  - ・ 郡山市：情報化推進アドバイザーや郡山市都市交通戦略協議会委員として、関係施策について助言等を行った。
  - ・ 白河市：訪問のうえ、意見交換を実施した。
  - ・ 郡山地域テクノポリス推進機構：訪問のうえ、意見交換を実施した。
  - ・ 只見町：除雪に関する課題についてAOI会議を通じた解決支援を行った。

- ・ 西会津町：町内事業者の製品検査に関する課題についてA O I 会議を通じた解決支援を行った。
- ⑤ ○ 福島県立医科大学に関して、システム整備に関する検討会への参画やアドバイザーとして助言等を行った他、3 件の共同研究に取り組んだ。
- ⑥ ○ アカデミア・コンソーシアムふくしまの構成員として、女性プログラマ育成塾事業を通じて、受講生の育成と就職支援を実施した。
- ⑦ ○ ワールドロボットサミット2020に向けて、制御ソフトウェア開発を担当し、その成果を活用して南相馬市の企業の参加・開発を支援した。また、ロボットテストフィールドに開所した会津大学ロボットテストフィールド研究センターを活用した人材育成事業により、ロボット産業を担う人材育成に取り組んだ（高校生等対象の研修会を13回実施、学生・社会人対象の研修会を1回実施）。
- ⑧ ○ A O I 会議を年340回開催し、福島県内外企業の支援を実施している他、A O I 会議から発生した、データ解析共同研究事業を実施した。また、県内企業の生産活動におけるビッグデータを解析し、生産効率を向上させるためのモデル事業を実施した。

#### (短大)

- ① ◎ シーズ集を80件配布する等の広報活動等により、市町村や各種団体との協働連携の可能性を広げた他、21件の地域との連携・協働を行い、目標の20件を達成した。また、学生参画型実学・実践教育は、前年度以上の36件実施した。
- ② ◎ 地域貢献の取組として、引き続き派遣講座を実施するとともに、一層の推進を図るため、派遣講座リストの作成とWebサイトへの掲載等、積極的な周知に努めたことにより、講座の開催件数が161件から204件へ増加し、目標の80件を大幅に上回った。

#### (共通)

- ① ◎ 公開講座及び教員派遣講座を下記のとおり実施し、会津大学が持つ知的資源を地域社会へ還元できた。

|    | 公開講座 | 教員派遣講座 |
|----|------|--------|
| 四大 | 16件  | 49件    |
| 短大 | 3件   | 204件   |

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止した講座：5件

- ② ○ 地域に開かれた大学として、大学内施設の一般開放をウェブサイト等により積極的に広報した結果、講義棟の利用件数が増加した（61件→83件）。また、先端ICTラボ（L I C T i A）については、会津IT秋フォーラムや民間企業と合同で搬送ロボットの実証イベントを開催し、地域の方々に利用された。

また、パソコン甲子園においては、併催イベントとして、研究室公開、プログラミング教室等を実施し、小学生も含めた地域住民が参加した。

※新型コロナウイルス感染症の影響で2月28日から大学内施設の外部

貸出しを停止。

**(2) 地域産業の振興に関する目標を達成するための措置**

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

**【令和元年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】**

**(四大)**

- ① ○ 女性プログラマ育成塾事業では、県内のIT関連企業等に就職を希望する女性に対してICT技術を学習する機会を提供するとともに就労支援を行い、51名の就労を達成した。
- ② ○ 新たに2社の企業を大学発ベンチャー企業として認定した。また、大学発ベンチャー認定企業と連携した研究活動を実施した。
- ③ ○ AOI会議を通じて、県内企業との共同研究10件、地方公共団体からの受託研究2件を実施した。

**(3) 復興支援に関する目標を達成するための措置**

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

**【令和元年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】**

**(四大)**

- ① ○ 先端ICTラボを産学官連携によるイノベーション創出の場とするため、活動の中心となるAOI会議を年間340回開催し、目標の年間300回を達成した。
- ② ○ IHI相馬工場の生産効率化のためのビッグデータ解析モデル事業を引き続き実施した他、県内拠点を持つ企業と引き続き共同研究を実施した。また、AOI会議を起点として、スマートシティAiCTに入居しているTIS(株)との共同研究を行った。
- ③ ○ 復興支援に向けて、福島県立医科大学や福島県警察本部等と連携し、各種事業に取り組んだ。
  - ・ 福島県立医科大学との連携：県民健康調査データ管理に関する検討会議と学術研究目的のためのデータ提供に関する検討部会への参画。
  - ・ 福島県警察本部との連携：サイバー対策アドバイザーの委嘱を受け、助言を行っている他、学生4名がサイバー防犯ボランティアの委嘱を受け、取組みに協力した。
  - ・ 先端ICTラボを活用して、サイバー攻撃対策演習講座（5日間、大手情報通信会社等から20名が参加）を実施した。
- ④ ○ 浜通りの産業復興の柱となるロボット産業を推進するため、県主催のロボット・ソフトウェア検討会に参画した他、南相馬市の高校生やテクノアカデミー浜の生徒を対象としたロボット人材育成事業により、実証・開発支援、人材育成に取り組んだ。

**(短大)**

- ① ○ 大熊町立小・中学校に対して、講師派遣や、グラウンド、体育館、テニスコート、図書館の開放を行う等、大熊町の将来を担う人材の育成を



積極的に支援した。

- ② ○ 相双への派遣講座を実施した他、復興支援に関する地域連携事業を12件実施して、目標の5件を達成した。

### 3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和元年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

(共通)

- ① △ 会津大学行動規範の周知を行ったが、目標であった組織運営方針の策定まではできなかった。
- ② ○ 県派遣職員1名を法人職員に切り替え、法人職員1名を増員した結果、法人職員の割合を年度計画どおり42.3%（事務職員71名中30名）に向上した。また、教員については国際公募により12名を採用した。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和元年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

(四大)

- ① ◎ 先端ICTラボや産業イノベーションセンター等の利用促進を図ることで、年間使用料収入が2,803万円となり、目標の2,400万円を達成した。
- ② ○ 2019年度版シーズ集を発行するとともに、東京等で開催される技術展示会への参加等により、技術の情報発信に努めた。また、技術移転機関(TLO)との連携により、実施許諾契約を2件締結した。
- ③ ◎ 会津大学学生生活支援寄附金の募集を開始して学生への経済的支援を実施した他、会津若松市や民間企業等から7件、合計2,613万円の奨学寄附金を受け入れ、公募型共同研究やスマートシティAICTとの連携事業を実施した。
- ④ ○ 改元や消費税の制度改正に関するシステム改修を計画どおり実施するとともに、事務処理効率化を主眼とした財務会計システム更新計画を策定した。また、計画のうち、会計事務処理工程の改善に対応するためのシステム改修を実施した。

(短大)

- ① ○ 紅翔奨学金の活用方法や税制上の優遇措置について、Webサイト等で広報し、寄附金の積極的な募集を行った。その結果、19.6万円の寄附金が集まり、前年度の16.5万円を上回った。また、規程に基づき、8名の学生に奨学金を支給した。

**(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置**  
**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**  
**[令和元年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]**  
**(共通)**

- ① ○ 数値目標の中間進行管理を実施し、10月に進捗状況を共有し、下半期の取組みに生かした。
- ② ○ 大学・短大の認知度の向上のため、はやぶさ2プロジェクトへの参加、ICPC国際大学対抗プログラミングコンテストの世界大会出場等の研究活動、表彰実績、産学連携、地域貢献等について積極的に情報発信した。

**(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置**  
**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**  
**[令和元年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]**  
**(四大)**

- ① ○ 年度計画を上回って施設・整備の修繕・維持管理を実施した他、長寿命化計画の策定に着手し、短大の長寿命化計画を策定した。
- ② ○ 司書による文献検索講座や外部講師による文献検索データベース講習会を実施した結果、電子リソースの利用実績が前年度に比べて増加した。

**(短大)**

- ① ○ 図書館の利用促進のため、学習・閲覧スペースの拡大等を目的とする「図書館改修検討会」を立ち上げ、改修案を作成した。会津大学短期大学部附属図書館除籍要領を策定し、長期的な計画に基づく除籍を開始した。

**(共通)**

- ① ○ コンプライアンスの徹底を図るため、各種研修を開催し、職員へ行動規範の周知に取り組み、特に研究者を対象とする研修においては、参加率の向上のため、e-learning研修を実施した。また、研究倫理に関するチェックシートの見直しや相談体制整備のための見直しを行った。
- ② △ 学生・教職員の健康診断受診率の向上に向け、メールで実施日時の周知を行った。学生には周知に努めた他、健診実施日等の追加設定を行う等、学生が受診しやすい環境を整えた結果、受診率が向上した。要精検該当の教職員には、所属長からの声掛けを行った。

学生・教職員の健康管理は非常に重要であり、健康診断受診率100%を達成すべきであるものの、特に、学生の受診率を100%にすることは現実的に困難である。達成が極めて困難であるものを数値目標に設定することの妥当性およびその評価方法について検討が必要。

|    |    | 平成30年度 | 令和元年度 |
|----|----|--------|-------|
| 学生 | 四大 | 88.3%  | 90.7% |

|     |    |       |       |
|-----|----|-------|-------|
|     | 短大 | 97.8% | 98.4% |
| 教職員 | 四大 | 94.1% | 92.5% |
|     | 短大 | 100%  | 100%  |